

南ロータリーの皆さん、お疲れ様でございました。

2016～2017年度、松本ガバナーは改革の2代目として5つの項目を立てられ、第1テーマとしてロータリーの基本理念 **The Ideal of Service** の周知と実践であります。

Service の概念も自己犠牲による一方的行為からロータリーの理念「善意」による、相互的行為によるサービスを常に心に植え付け、一灯をともし **I Serve** の活動であります。

今年、IM第7組9クラブ、クラブ活動にて **The Ideal of Service** の意味するところの「善意」の研究を個別にさせていただきました。

その集大成を7組9クラブ共に共有すべくロータリーデーにてホストとして大阪南ロータリークラブ様に発表していただく機会を得ました。

ポールハリスは「ロータリーに未来がある、なぜならロータリーは『善意』の一つの塊であるからだ。」と言いました。私たちはその善意のひとかけらです。ロータリーの基本理念「善意のひとかけら」であることを今年是非認識していただきたいのです。これがロータリーの哲学です。

本日の基調講演、本会議のパネルディスカッションによりますと、大阪南ロータリー様が本年度実践位着手されたテーマ「TURUMI こどこホスピス」活動は本年度ガバナーの周知と実践のサンプル模範活動であります。

私達人類は宇宙の分身として縁によってこの世に生まれてくるわけですが、百人が百人。身体健全に生まれてくる縁とは限らない現実の認識であります。現在は健全であっても、人生塞翁が馬、我々の周囲にいつ「本日のテーマの縁」に関わるとも限りません。

日本には難病と言われている子供の数が15万人、生命を脅かされる病気のを伴う子供の数は2万人いると報告されました。しかし、行政、医療、福祉の現場では平準化された対応にならざるを得ない報告です。

難病であるがゆえに各家庭が必要とされる個別ニーズに応えるには、一灯をともして地域の貢献する「善意」による相互的行為のサービス、「人類に奉仕するロータリー」が出番でしょう。

当年度から即、ロータリーが出番と原点回帰されてガバナーテーマの実践に移された大阪南ロータリークラブ様の活動は、第1回クラブ協議会で、今年度は「社会サービス委員会」として善意による活動をするを厳命されました。そして実行に移されました。まさに、ロータリアンの層の厚さによるものであると敬服いたします。



願わくば、本年度より活動されたTURUMI こどもホスピス支援活動にご協賛賜りサービスの輪がIM第7組、そして2660地区に広まる一灯をともし活動にであることを願っている次第であります。

最後になりましたが、小八木実行委員長、小倉会長、会員の皆様方の一丸となつてのご協力の下で、今日、このようにIMが立派に成功しましたことを厚く御礼申し上げて、講評の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。

次年度ホストクラブの紹介をいたします。
国際ロータリー第2660地区2017から2018年度
IM第7組ロータリーデーホストクラブ
御堂筋本町ロータリークラブ坂中良郎会長をご紹介します。
よろしくお願いいたします。

